

「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」
第1回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

団 体 名	認定特定非営利活動法人 児童虐待防止協会		
事 業 名 称	学校現場での子ども虐待予防教育推進のための取り組み	助成額	50万円
申請事業の概要	学校の教員や関係者が子ども虐待予防教育の理解を深め、授業に取り組みやすくするための冊子を作成し、大阪府内の高校へ配布する他、関連する情報提供、授業の協働実施を行う。		
申請事業の目的	近い将来、親になり子育てを行う次世代を対象とした虐待予防教育を普及させることにより、子育てにつまずいても SOS を出しやすくすること、子育てを支え合えるパートナーシップを持った関係性を築くこと、虐待を発見した際に見逃げせない市民を育てること、などの一助とし、社会全体の虐待予防・防止を図ることを目的とする。当協会が授業を行うだけでなく、学校現場で教師が授業を行うことを促進することで、教師自身の虐待への理解も深まり、被虐待の疑いある生徒を発見しやすく、日常的に寄り添える子どもの支援者となる副次的な効果も想定している。		
関連するSDGs目標	    		

2. 助成事業の実績・成果等について

1. 中学校・高等学校教員を巻き込んだプロジェクトの運営会議の開催

これまで学校現場で虐待予防に先駆的に取り組まれている教員や関心を持つ教員の方々から、意見をいただきながら事業に取り組んでおり、今回そうした方々のうち5名に運営会議のメンバーになっていただき、当協会スタッフと共に、教員向け冊子作成のプロジェクトを主体的に担っていただくことができた。原稿執筆も引き受けていただき、内容検討の中で、当協会の姿勢、各先生方が現場で取り組んでこられた実践の具体的な内容、思いや課題などを互いに共有することで豊かな協働作業を進めることができた。

2. 冊子『子ども虐待予防教育というアプローチ～学校現場ではじめる100分からの挑戦』発行



それぞれ中学校・高等学校で家庭科、地歴・公民科、国語科教員、養護教諭等として授業に取り組まれている経験を生かし、また、各学校で出前授業を行ってきた当協会スタッフによる多様な授業案を集約でき、他に例のない先駆的な冊子ができたと自負している。タイトル副題にあるように、多忙をきわめ、近年さまざまな役割を期待される教員が、読みやすく、短時間でも取り入れやすい内容と分量になっている。準備から実施、実践後に至るまでの様々な配慮についてまとめられたことも大きな成果であった。当協会としても、学校現場の実態について学ぶ貴重な機会となった。

3. ティーンズ APCA の集大成

当協会では、10年以上前から学校の依頼を受けて“出前授業”に参加し、“ティーンズ APCA”として実践経験を積んできたが、本冊子作成において現時点での“集大成”としてまとめることができた側面がある。近年“探求学習”の一環で、様々な社会課題に取り組む授業が増えている中、外部講師・NPO 参加の授業ニーズは今後さらに増えていくものと考えられ、当協会の虐待予防授業への参画の機会拡大に向けた学校へのプレゼン資料ともなる。

4, 『「子ども虐待」について学ぼうとしている皆さんへ』の改訂

高校生向けのテキストとして 2014 年に初版を発行したが、社会や支援サービスの変化に鑑み、内容を見直し改訂をすることができた。教員向けの今回冊子と併せて活用してもらうことを想定している。

5, 配布部数と今後の効果

1000 冊の印刷発注をし、学校の 2 学期開始に合わせ 8 月末に、『改訂版「子ども虐待」について学ぼうとしている皆さんへ』と共に、大阪府内の高等学校・中学校 806 校、執筆者、協力者、当協会関係者等に 124 冊を発送した。発送後、複数の学校から追加発送の要望が入っており、1 校あたりの冊数を限定して対応している。残部は、大阪府以外の学校関係者を中心に活用する予定である。

教員の方々とこのこれまでの意見交流から浮かびあがってきたのは「虐待について授業で取り組むことに対する敷居の高さ」という課題であった。

その要因・背景には、教員自身が虐待理解に自信がないことや抵抗感（「どのように進めていったらわからない」、「虐待を受けている生徒や授業を受けることにしんどさを感じる生徒への対応に難しさを感じる」）などがあった。

虐待は、世代間連鎖という問題特性があり、虐待問題への対応は予防が最も効果的かつ重要である。

子ども、若者に教育を行うことで、将来、必要な時にはサポートを得て不安なく子育てのできる親になること、あるいは子育てをサポートできる社会人の育成に資することが目標である。この冊子は、教員の敷居を低くし、当協会や一部の教員が実践するだけでなく、より多くの学校で“虐待予防教育”に取り組む一助となると考えている。



3. 課題分析や今後の発展性

1, 『子ども虐待予防教育というアプローチ～学校現場ではじめる 100 分からの挑戦』、並びに『「子ども虐待」について学ぼうとしている皆さんへ』を用いた子ども虐待予防教育の普及促進に取り組む。

2, 冊子を授業で使用された方々との意見交流会、アンケート、効果検証など、教員からのフィードバックを得て、当協会の出前授業「ティーンズ APCA」のブラッシュアップを図りたい。

3, 1・2 と並行して、子ども虐待予防授業に関する紙媒体以外の資料、ウェブでのデータ配信、コンテンツ教材の開発にもチャレンジしていきたい。

4, 「子ども虐待について学びたい」「取り組みについて教えてほしい」など、高校生を中心に子どもからの個人的な問い合わせも増えており、今回の事業での学びを土台にして、今後は子どもに対する直接的な様々なアプローチの仕方についても探していきたい。

4. 代表者又は担当者からのひとこと

教員の方々とこれまでになかった協働作業に取り組み、子ども虐待予防教育の普及に向け、新たに一步踏み出すことができたのではないかと感じています。ご助成に心より感謝申し上げます。さらにステップアップできるよう、これからも取り組みを進めて参りたいと思います。ありがとうございました。